

## 式辞

ただいま、学士、修士ならびに博士の学位を授与された理工学部 157 名、大学院光科学研究科博士前期課程 13 名、博士後期課程 1 名の皆さん、誠におめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響でこのような形での卒業式が出来ませんでした。本日は一堂に会して、みなさんに学位記を授与できたことを大変うれしく思います。

また、ご家族の皆様も学びを終え、社会に巣立つ姿に、喜びもひとしおのことと存じます。感染防止の観点から映像を通してご覧いただく形になったことを大変心苦しく思いますが、これまで本学にお寄せいただいたご理解、ご支援に対する感謝とあわせて、心からのお喜びを申し上げます。

さらに本日は年度末のご多忙の時期に、千歳市長山口幸太郎様、千歳市議会議長佐々木雅宏様にご臨席いただきました。衷心より感謝申し上げます。

さて、皆さんはこの1年、新型コロナウイルス感染症の影響下で学びをつづけてきました。急遽開始したオンライン講義やハイブリッド授業、一時期は大学への登校も禁止され、課外活動も出来ず、卒業研究や就職活動を迎えて不安のなかでの1年だったと思います。

大学としてもその時々で最善を尽くして参りましたが、姿がよく見えない相手との戦いだけに手探りのときもありました。

そのような環境の中で、みなさんはしっかり卒業研究を遂行し、就職活動もオンラインが主体で何かと不安が募るなかを 例年と変わらぬ実績を上げてくれました。

昆虫記で有名なファーブルは「人生のつらい試練はどこかで説明がつくはずだ」と言っています。日常のくらしが大きく変わった1年でしたが、人類はこれまでもウイルスとの大変な戦いを乗り越えて今日に至っています。史上最悪の感染症と言われるペストは何年にも、何度にもわたって流行し、ヨーロッパの人口の1/3が死亡したとも言います。

一方で、あの偉大なアイザック・ニュートンが万有引力を発見したのは、ペストで大学が2年間も休校になったときのことであり、それ故にその期間を創造的休暇と呼ばれています。

どんな厳しい環境にあっても、次のステップに進む努力をすることで、未来を切り開くことができるのです。

みなさんは「人間万事塞翁が馬」ということわざを聞いたことがあると思います。

塞翁という主人公が禍福、わざわいと喜びを繰り返して経験するというストーリーで、意味するところは、良いことが悪いことに、悪いと思ったことが良いことに転じるのが世の常であり、人生において、何がよくて何が悪いのか、後になってみないとわからない、と言う意味の言葉です。

就職試験で苦勞して、必ずしも第一希望ではない会社に進むことになった人もいるかもしれませんが、しかし、これから入る会社の方がみなさんにとって幸せにつながることもある、意気消沈することなく、ベストを尽くせば道は開ける、と言うことです。

絶頂の時に最悪に備え、最悪の時にも希望を失わない、と言う行動のベースになります。

充実しているときにただ満足感に浸るだけに終わらずに、また失意の時には、必ず良い時が来ることを信じてこれからの人生を送ってほしいと考えます。

ところで、これからみなさんの多くは企業に勤めることとなります。入社すると最初に仕事を進めていく上でのいろいろな約束事や手順・マニュアルを教えられるはずですが、まずはそれらを身につけることから始まりますが、もっとも大事なことは、なぜそのような手順になっているのか、と言うことを考えることです。省エネの活動が盛んになり始めた、かなり以前の話ですが、ある全

国規模の企業の北海道支店で実際にあった話をします。東京の本社から、夏のエアコンの設定は28度にする、と言うおふれが回ってきました。東京の夏のあついときは35度を超えることも珍しくありません。当時25度前後の温度設定が一般的でしたが、それを2、3度上げることで省エネを図ろう、と言う趣旨です。ところが北海道でその通りにしたところ、涼しい日には暖房が入ってしまったそうです。マニュアルを鵜呑みにしたため、28度の意味を少し考えればわかることですが、特に本社のお達し、というような権威が裏についてくると、つい何も考えずに従ってしまうことが起こりがちです。みなさんも行動するときには何が真の目的なのか、今の行動は目的に合致しているのか、本当の意味するところを常に考えながら行動してほしいと思います。それが出来れば、AIやロボットに負ける心配はありません。

さて、多くのご家族の皆様には、これまでの二十年以上にわたる子育てが、本日大きな節目を迎え、思い返されて感慨は極めて深いものと存じます。これからは子供としてではなく、大人として卒業生と向き合い、大いに頼りにしていただくとともに、立派な社会人になるためのもう一段のご支援をいただければ誠に幸いです。

むすびにあたり、公立千歳科学技術大学を母港として社会に旅立つ171名の未来が、希望に満ちた光あふれる世界となることを心から祈念して式辞と致します。

令和3年3月20日

公立千歳科学技術大学  
学長 川瀬 正明